

BANGLADESH

Road to ダッカ大学

# 20歳の社会起業入門!

落ちこぼれ高校生が、自分の可能性を信じて東京大学合格を目指す  
あの人気漫画『ドラゴン桜』。僕はいま、アジアの片隅であのドラマを実現する。

文：税所篤快



## Vol.3 ドラゴン桜に、初の脱落者決定か!?

「バングラデシュ版『ドラゴン桜』、始まる。村の貧しい高校生30名が、この国初のEラーニング授業でダッカ大学(東京大学)を目指す!」。このニュースが世界を駆け巡って、2か月。

ダッカ大学の文系コース(B、D)に合格するには英語、国語(バングラ語)、社会の3科目が必要だ。倍率20倍を超すなか、全国の受験生が憧れのキャンパスライフを目指して必死に勉強をする。村はずれの小さな教室でも、毎週3教科・各2時間ずつ合計6時間のEラーニング授業と、一日10時間の自習が求められる。

7月中旬。クラスは軌道に乗り始め



るはずだった。一本の電話が鳴るまでは……。 「アツ! 大変だ。3名の生徒が辞めたいと言っている! すぐ対応しないとみんな精神的にガラガラと崩れてしまう」。パートナーのダッカ大学生、マヒンからの電話で起こされた。すぐに、8時間のバスと船とペビータクシーを使って村へ向かった。

さっそく、辞めたいと言い出した3人

と個人面談を行う。「いったいどうした?」

急に辞めるなんて言い出して。顔を伏せていたマイノッディン(18歳)がポツリポツリと話し始めた。「信じられないんです……。信じられないんですよ! 僕たち田舎の学生がダッカ大学に合格できるなんて!!」。

マイノッディンは一気に話し出した。「いつもこの教室で学び、希望が湧いてきます。僕にもひょっとしたらできるんじゃないかって。でも! 一歩外に出れば、待っているのは村の日常です!」 「父はリキシャ引

きで、僕に仕事の手伝いを求めてくる!」 「両親は、田舎の貧乏学生がダッカ大学に合格出来るわけがないと思ってる!」 「家業の手伝いをするよう怒られ、家で勉強ができないんです」。そこまで言うとき、下を向いた。

隣の教室では、授業中のはずの生徒たちがヘッドフォンをはずし、PCを一時停止させ聞き耳を立てている。

これが、この国の農村部の現実だ。彼の家庭は、「ドラゴン桜」参加者中、もっとも貧しい。リキシャ引きは、1日200TK(約250円)稼ぐのがやっと。1か月の生活費が6000TKを切る貧困層(BOP)だ。両親は、教育よりも今日を生きるための稼ぎを求める。

それでもマイノッディンは優秀な学生だ。村の高校ではトップクラス、高校卒業試験では「Aプラス」。ダッカ大学にも挑戦できる成績だ。ただ、普通なら彼の教育キャリアは高校卒業

で「ジ・エンド」。ダッカの予備校に通うお金がないからだ。そんなときに、ドラゴン桜プロジェクトに出合った。村の先生たちは、彼のような才能はあるが、大学には進めない高校生を「Hidden Treasure」(埋もれた宝物)と呼ぶ。あきらめるには早過ぎる。頭を抱える僕と仲間たち。確かに、村から一歩も出たことのない生徒たちに、「ダッカ大学合格は実現できるんだ!」と感じさせられる

だろうか。「ダッカ大学に連れていこう」。僕らの結論はシンプルだった。自分の目で見て、空気を感じ、この大学で学びたいと、心の底から思わせること。これしかない。迅速な行動こそ、このチームの強み。1週間後、村からダッカ大学行きの貸し切りバスを手配した……。

今回の脱落騒動は、重要な教訓を残した。「生徒に、自分の可能性を信じられる環境を作り出してあげること」。どこの国でも大切なことは変わらない。先進国であろうと、ここアジア最貧の国であろうと。

今回の脱落騒動は、重要な教訓を残した。「生徒に、自分の可能性を信じられる環境を作り出してあげること」。どこの国でも大切なことは変わらない。先進国であろうと、ここアジア最貧の国であろうと。



SIDE STREET SPECIAL

## 税所くんの バングラ日記 特別編 アジア最貧のスラムに行く。



### スラムの子どもはテレビがお好き?

おかしい。なぜなんだろう。ここは、首都ダッカで最も有名な、ミルプール地区のスラムの一角。この街のなかで、一番苦しい生活を強いられている人たちのテリトリーのはずだ。なのに、どこの家を見てみても戸棚には、なぜかテレビが置いてある。テレビの価格は3万TKは下らないはずだ。スラムの大人が半年かかって稼ぐ金額だ。現地大学生リサーチャーのミティールも首をかしげる。「いったいどうしてこんなに普及率が高いの?」。

ダッカ大学の教授は言う。「どんなに貧しくても、エンターテインメントは人生に欠かせない。教育や医療を犠牲にしているのだらう」。

子どもたちに聞いてみる。「好きなテレビ番組は?」。子どもたちは、大はしゃぎで、「トムとジェリー!!!」。すごい! 人気キャラは、先進国もアジア最貧国も一緒なのか! そして、テレビのない家庭の子どもは、持っている子の家庭にお邪魔してアニメを楽しんでいた。なんだこれって……。

### スラムの女性はきれい好き?

あなたは、アジア最貧国のスラムの女性たちがきれいで、外国企業のシャンプーを使っていると聞いたら驚きますか?

「スラム」と聞くと日本人はとんでもない貧困の集落を想像するけれど、ここダッカのスラムはちょっと違う。なにせ、女性たちのほとんどは、あの世界に名だたる化粧品会社「ユニリーバ」のシャンプーで毎日頭を洗っているのだから。もちろん、あの大容量ボトルを買ってシャワーなどで洗ってはいけれど。なんと一回使い切りで1パック5TK(約6円)。こんなところまで、ビジネスで入り込む多国籍企業恐るべし。

「じゃーん」とかぶるのは、パケツシャワー。スラムみんなの、共用の汲み取り式井戸で、女性のシャワータイムだ。男は立ち入り禁止に……。

僕が見たスラム。井戸、調理場、トイレ、テレビまでをみんなで共有し、足りないものはお隣さんとの貸し借りで済ませる。生活環境は決して素晴らしいとは言えないが、たくましく生きる人たち。そう、僕は映画「ALWAYS 三日月の夕日」の風景の中にいた。

1.村の高校3年生。お金がなくダッカの予備校には行けない。2. Twitterで呼びかけ、日本から集めた中古PCで受講する生徒。3. 村はずれの小屋に、この国最高の先生が現れる。4. 授業の収録機。5. ダッカ大学生100人にインタビュー。6. 社会のイモン先生。7. 国語のガリア先生。8. 英語のザハン先生。

### さいしよ・あつよし

早稲田大学教育学部3年(現在、休学中)。バングラデシュダッカ在住。バングラデシュ版ドラゴン桜[E education project]代表。20歳でグラミン銀行グループ初の日本人コーディネーターに就任。同年、最年少でのプロジェクトを立ち上げ、独立。  
Twitter アカウント: AtsuyoshiGCC

